

さんだ里山スマートシティに向けた取り組みについて

(Sanda Satoyama Smart City)

1 理念

今回のコロナ禍で、大阪・神戸から適度な距離感にある本市は、リアルとリモートのハイブリッドな働き方ができる、最適な立地であることが再認識されました。また、移住定住先でも上位にランキングされるなど、本市の付加価値は一層高まっています。

一方、コロナ前から進みつつあったデジタル革命(DX: Digital transformation)の流れはコロナ禍により急速に加速しています。

本市へ新しいひとの流れを作りだしていくためには、デジタルを活かした産業・就労機会の創出、暮らしやすい環境を整備し、人・企業を惹きつけるような魅力的なまち・三田を作りだしていくことが重要です。

このため、ポストコロナを見据えつつコロナ禍で浮き彫りとなった“三田の強み”や“三田の地域課題”を踏まえ、デジタル革命を先取りする「さんだ里山スマートシティ(Sanda Satoyama Smartcity)」の推進に積極的に取り組んでいきます。そこでこの取り組みによりもたらされる利便性・効果を市民にいち早く実感してもらうため、6つのリーディングプロジェクトに着手します。

2 リーディングプロジェクト

(1) 地域情報ポータルサービス・・・まちのブランド観光課/秘書広報課/若者のまちづくり課

レイアウトや情報が固定された現在の市ホームページ(静的ホームページ)を閲覧者毎の登録属性情報や閲覧履歴に基づき個々のニーズに合った行政情報・地域情報・民間サービスの情報を表示するプッシュ型ホームページ(動的ホームページ)に再構築します。

(2) スマートモビリティサービス(MaaS)・・・交通まちづくり課

フェーズ1

- ・農村地域(広野)においてAIデマンドシステムを活用した地域内交通の導入及びニュータウンにおいてグリーンスローモビリティなど次世代交通による新たな移動手段の導入を図ります。
- ・公共交通チケットのデジタル化や貨客混載(「ヒト」と「モノ」を一緒に移動)による物流サービスとの組み合わせによる新規ビジネスの可能性など、生活サービスの向上・効率化に向け、地域特性に応じた三田型MaaSのあり方を模索します。

フェーズ2

- ・フェーズ1による導入事例を検証し、他地域へのさらなる展開を図ります。
- ・病院予約システムや商業施設のクーポンサービスなどの情報と、公共交通などの移動手段を連携して、「ヒト」・「モノ」・「サービス」と移動の一体的・効率的な仕組みを構築することで、持続的な公共交通の利用促進を目指します。

(3) IoTヘルスケア・サービス・・・健康増進課

フェーズ1

- ・市民がスマートウォッチ(ウェアラブル端末)やスマートフォンアプリを使い、体重・血

圧などのバイタル情報、歩行数・消費カロリー、睡眠時間などの健康情報を集約・見える化し、自身の健康に対する関心を高め意識・行動変容につなげます。

- ・個々人の状態に応じた健康アドバイスを提供します。
- ・継続するためのインセンティブとして歩数等の週ごとの目標の達成、健康イベントへの参加などで健康ポイントを付与します。(健康マイレージ事業として位置づけます。)

フェーズ2以降

- ・個人ごとに検診結果、診療情報、投薬情報等を集約 (PHR:Personal Health Record)、見える化し、個人の日常生活習慣改善など予防医療・健康づくりに活用していただくことにより、通院等に係る時間・費用負担の軽減を図ります。
- ・他の医療機関受診やオンライン診療などにおいて PHR を医療機関間の連携強化に活用し、効果的・効率的な医療等を受けることが可能となります。

(4) スマート行政サービス

① リモートワーク都市・三田・・・ICT推進課／協働推進課／産業政策課

フェーズ1

- ・本市の特徴的な資源である地域ごとに設置している市民センターを最大限活用し、市民向けリモートワーク拠点を整備しアフターコロナを見据えた在宅勤務、働き方改革を進めます。

フェーズ2

- ・フェーズ1によるテレワーク需要を検証し、主要各駅の周辺のまちづくりや空き家・空き店舗へのさらなる展開を図り若者の就業機会創出やセカンドキャリアの支援を充実させます。

② 地域活動のリモート化支援・・・協働推進課

with コロナにおける自治区・自治会、まちづくり協議会等の地縁団体活動のリモート化を支援するため、市と地域団体との Web 会議等ができる環境を市民センターに整備します。

③ スマート市役所・・・ICT推進課／人事課

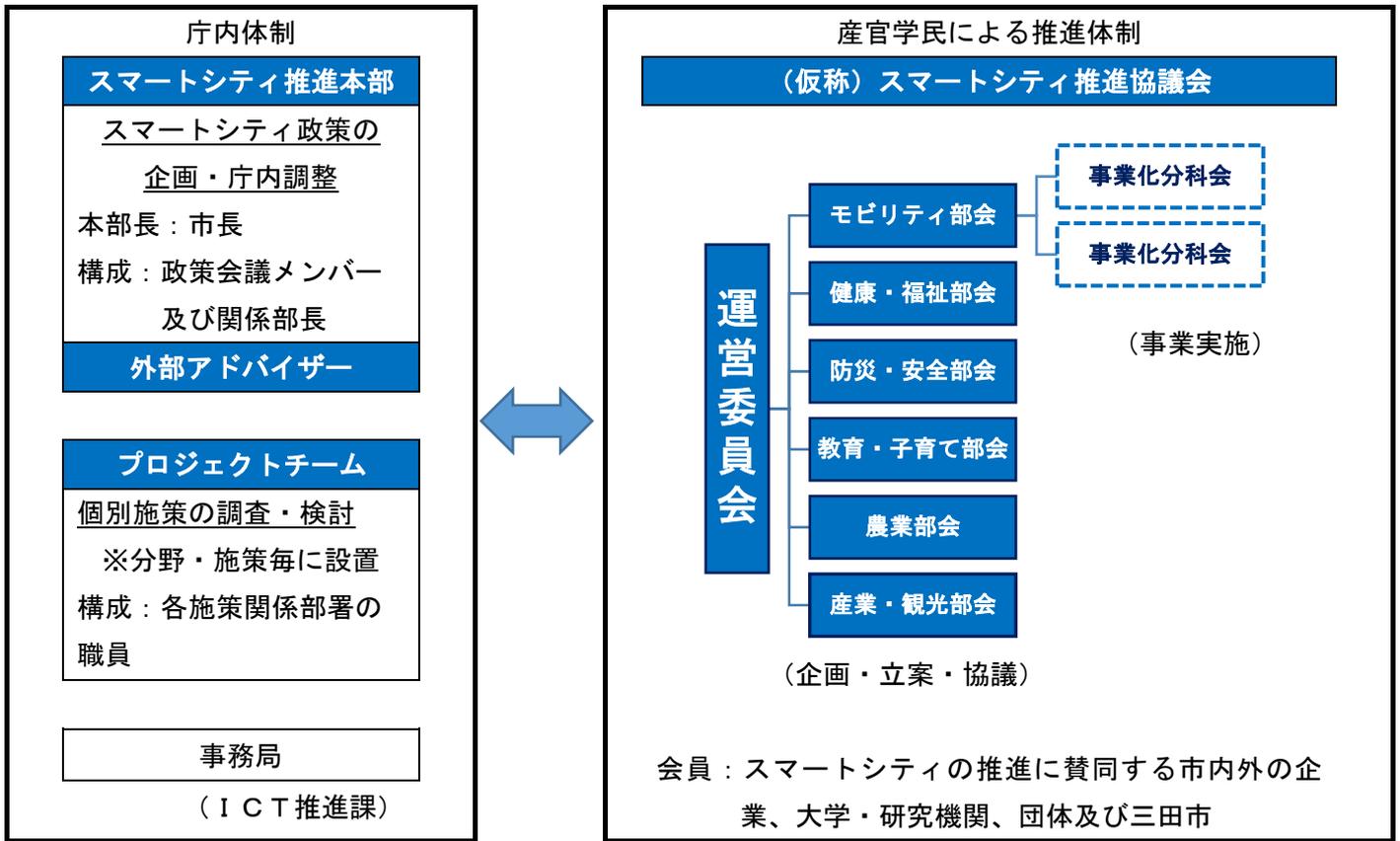
マイナンバーカードによるオンライン申請、窓口での申請書作成、キャッシュレス決済の拡大などにより実際に市役所に足を運ばなくてもデジタルで手続きが完結する「スマート市役所」を目指します。

これにより行政手続きに費やす時間・経費を軽減し、市民・事業者の利便性向上を図ります。

◆上記フェーズ2以降の取り組み及び他分野の取り組みは、産官学民による推進体制「(仮称)スマートシティ推進協議会」で協議・決定します。

スマートシティ：新型コロナウイルスの感染拡大などにより社会が大きく変化する中、加えて人口減少や高齢化の進行する中、暮らしやすく働きやすい都市であり続けるため、スマートデバイスや IoT 機器などから得られるデータ・先進技術の活用により、都市・地域が抱える様々な課題の解決と都市機能・都市サービスの高度化により市民の生活の質 (QoL:Quality of Life) を向上させる取り組み

3 スマートシティ推進体制 (案)



◆ **スマートシティ推進協議会**
運営委員会

役割：協議会の活動方針、部会・分科会の設置、分野間・事業間連携促進

構成：三田市、大学・研究機関、企業、団体、有識者等

部会

役割：各分野に係る事項の企画・立案・協議

構成：各分野関連企業・団体、各分野に係る知見・技術を有するICT企業等

事業化分科会

役割：各分野の具体的事業の調査・研究・実施

構成：当該事業関連企業・団体、事業に係る知見・技術を有するICT企業等

4 スケジュール (令和2年度～)

R2/9月	10月	11月	12月	R3/1月	2月	3月	4月	5月～
PT設置・市内研修会・先進事例調査								
市内PTによる課題整理、解決手法の検討								
予算化 (補正・当初)								
基本構想 (案) 策定								
参画団体 (企業、大学、各種団体)				パートナー企業公募				
スマートシティ推進協議会設立								
スマートシティ基本構想・基本計画策定								
サービス開発・実証・提供 (順次)								